



ゴボウの成育に 見る人生

茨城県 山口哲雄

つれゴボウはその使命である完結に向つていて、ついに抜きとられる日を待つのである。太古からこの繰り返しである。有難い。

家の前のゴボウの葉が枯れ
て虫喰いも多く近く朽ち葉に
なる。盛りの時には背丈が高
く車の出し入れにも見通しを

悪くしていた。

葉に老いが覆うと本来の地中のゴボウは採り頃となる。人生もこれと同じで、成長期には太陽の光を満喫するため勢よく葉をひろげ精一杯背のびをする。その時にはまだゴボウは未成熟で食べられない。葉が光を吸う必要の失せるに

兄の五十三回忌と 母の十三回忌

横浜市 野本武子

去る十月十六日、母、兄の法事を執り行い頂きまして洵に有難う存じました。厚く御礼申し上げます。お陰様で肩の荷がおりた思いで居ります。早いものでござります。母の死よりもう十三回忌となりました。戦死しました兄のこ

とを母は非常に悲しんで居りましたので、はからずも兄の五十回忌、母の十三回忌と重なりましたのも、母の想いがあつたのではないかと思つて居ります。亡兄のことは、弟妹達はあまり記憶に無いと申して居りますが、私には、一番大好きな兄でございました。フイリピンで学徒兵のままだんなにか無念の思いで死んでいたことと想いますと、私で出来るだけの供養をしてあげたかつたのでござります。

さる八月末、フイリピンに妹と慰靈の旅に参加しました。

旅行業者の建立した小さなお寺「比島寺」ですが、お盆供

養をして参りました。三名の僧侶の方々が日本より参加して下さいました。年配の方は浜松のお寺のご住職で比島よりの生還者。若い僧侶の方が娘婿とのことで父上の病気を心配されて付き添つてこられました。もうお一人はレイテで父君（住職）が戦死されたということですございました。

夜分ホテルのかたわらのバクサンハンの川で僧侶の読経の中で灯籠流しを行い、兄の冥福を祈りました。頂いた塔婆は比島寺に納めて参りました。有り難う存じました。

日本での供養も無事終り、とても嬉しく存じております。

心身いたわりながら 「アメニモメゲズ」に

八王子市 糜信義男

末筆になりましたが善光寺様の益々のご繁栄と方丈様を始めご一家皆様のご健康をお祈りして、御礼の御挨拶申し上げます。

開創二十五周年、留学僧育英会設立十周年まことにおめでとうございます。度々ご本を送つて頂きありがとうございました。愛読させていただいております。

私どもの息子も昨春東京工大的大学院を卒業しキヤノン㈱にお陰様で就職致し、一安心

の矢先の事でございました。

息子と二人して善光寺様にお参りさせていただいたところ

よりすこしづつ貧血が出ていたように思います。四、五年間自覚症状もなくすこし、会社の健康診断で、検査を要する

ると出されてしましました。

町内の行きつけの主治医に相談したところ、「それでは一度検査をしましよう」と医療センターを紹介して頂き、その結果

「骨髄異形成症候群」との診断が下りました。生活につきりがついて今まで以上町内、寺、等にご奉仕できると思つていましたので、大ショックを受けました。七月十三

日に入院しましたが、入院前に、菩提寺のお施餓鬼の本堂

清掃、仕度、当日のお手伝い

をさせていただきました。

先日、昼間光威先生が見舞に来て下さり、私の枕もとに『日課經要集』がおいてあるのを見て、『正法眼藏』や『修証義』の聖典など色々郵送して下さいました。毎日ベットの上で勉強させて頂いており

ます。

私の病気は見た目には元気そうですが、血液を作る體が悪いので薬もないようです。早いもので入院以来三ヶ月になりました。一時は落込んでいましたが、今は大丈夫です。

病気と仲良く付き合つて行きます。

○

世尊様よりはげましの言葉、

そして見舞いまで頂き、ありがたく只々合掌低頭し落ちる物を止めることができません。

入院以来、真夏の暑さもさほど感じることなく過し、病院の窓よりふと外を見ると、いつの間にか赤トンボが舞う季節になつたのに気がつきました。早いものです。あと一ヶ月ほどで退院し、通院となる見込です。家に戻りましたら今迄はがむしゃらに働きましたが、今後は一日一日を心身

からいたわり「アメニモメ

「ゲズ」の心で菩提寺、町内会等々のお手伝いをさせていただくつもりです。

お忙しきおりの手紙、見舞、本当にありがとうございました。

ネパールの学校のこと カトマンズにて

野田忠行

突然の手紙でびっくりなさた事と思います。私は川尻様と二度善光寺へ伺ったことがあり、今回川尻様と京都の清水様（尼僧）と一緒にインドに来て、七月二十二日朝九時には貧しく学校へ行けない子供

ました。成田～十時間～デリー～十四時間～ダルマサーラ～九時間～マナリ～九時間～ジスパーと飛行機とバスを乗り継いで来た甲斐がありました。帰りは二十三日早朝ジスパーを出発しマナリ～デリーを経由して、二十四日正午にアジャンタ・ホテルで解散の昼食会をしました。

ところで私は、ネパールのカトマンズに学校を持つており、十四人の生徒が来ております。インド旅行の帰路七月二十七日に訪問し、ささやかなパーティーをしました。写真はその際のものです。彼等

達です。二十八日に男の子にはジーパンと上着、女の子にはブラウスとスカートを寄付しました。この買物をしてくれたのは友人の奥様です。二十九日の授業には子供達は皆



新調の服を着ていました。

今のところ一部屋しか借りていませんが、近々もう一部屋借りて、もつと多数の生徒を収容したいと考えております。土地、建物も安いので、

小学校（六年制）の設立も力トマンズの友人達と話し合い

をスタートしました。子供達に勉強のチャンスを与えたいたと思っています。

一回しかない人生

残り余生を有効に

横浜市 牧野貞夫

人生、思惑通りにコトは展開してくれません。十二月に

退職して、などと考えており

ましたが、年回りのせいではようか、小生にとりましては大きな仕事に取り組むことになりました。早く軌道に乗せ、後輩にバトンタッチしたいと考える今日この頃でございま

す。

白もそうたくさんあるようにも思えず、少々焦りの気持ちもあります。しかし一日一日、がんばる所存でございます。





